

第1回日本 DOHaD 研究会年会プログラム

開催日 2012 年 8 月 4 日 (土)

会 場 国立保健医療科学院 交流対応大会議室 (本館 2 階)

テーマ 健康と病の起源：ライフコースのスタートにできること

9:00～ 9:10 開会の辞

代表幹事挨拶

9:10～ 9:40 基調講演

胎生期環境と生活習慣病

演者 福岡 秀興 (早稲田大学)

座長 佐田 文宏 (国立保健医療科学院)

9:40～10:10 特別講演

乳幼児身体発育調査の評価

演者 横山 徹爾 (国立保健医療科学院)

座長 瀧本 秀美 (国立健康・栄養研究所)

10:10～11:30 シンポジウム 1 日本の出生コホート研究の現況

座長 土屋 賢治, 佐田 文宏

(1) 日本の出生コホート研究 佐田 文宏 (国立保健医療科学院)

(2) 千葉出生コホートについて 森 千里 (千葉大学)

(3) 浜松母と子の出生コホート研究 (HBC Study) : 自閉症スペクトラム障害の神経学的発達
の軌跡を描く 土屋 賢治 (浜松医科大学)

(4) 東北メディカル・メガバンク機構：三世代コホートの紹介
目時 弘仁 (東北大学)

11:30～12:30 昼休み/幹事会

12:30～12:50 総会

12:50～14:10 シンポジウム 2 乳幼児保健医療の現況

座長 板橋家頭夫, 瀧本 秀美

(1) 母子健康手帳について 加藤 則子 (国立保健医療科学院)

(2) 栄養教育 瀧本 秀美 (国立健康・栄養研究所)

(3) 自閉症児童に見られる特異的低脂血症
松崎 秀夫 (浜松医科大学)

(4) 新生児医療 板橋家頭夫 (昭和大学)

14:10～15:30 シンポジウム3 動物モデルを用いた DOHaD 学説の検証

座長 久保田健夫, 伊東 宏晃

- | | |
|-------------------------|---------------|
| (1) 低栄養と生活習慣病（肥満）リスク | 伊東 宏晃（浜松医科大学） |
| (2) 過栄養と生活習慣病リスク | 杉山 隆（東北大学） |
| (3) 絨毛膜羊膜炎の諸臓器の発育発達への影響 | 鈴木 啓二（東海大学） |
| (4) 低栄養とエピジェネティクス | 久保田健夫（山梨大学） |

15:40～17:52 一般演題

座長 小山田 正人（藤女子大学）

- (1) 双胎児の出生体重と adiposity rebound age 及び BMI 推移の関連に関する検討
加藤 則子（国立保健医療科学院 地域保健システム研究分野）
- (2) 女子大学生の DOHaD に関する認識についてのアンケート調査：Gage ら(AJCN 2011)の質問票を用いて
遠藤 綾（藤女子大学 人間生活学研究科 食物栄養学専攻）
- (3) SGA児の臍帯血遺伝子発現から見た生活習慣病発症リスクについての検討
吉田 丈俊（富山大学附属病院 周産母子センター）
- (4) 極低出生体重児における栄養法がリポ蛋白プロファイルに与える影響の経時的検討
菅沼 広樹（順天堂大学医学部附属静岡病院 新生児センター）
- 座長 秦 健一郎（国立成育医療研究センター）
- (5) 早産・超低出生体重で出生し 13 歳時に糸球体サイズ増大と糸球体硬化を認めた一例
西崎 直人（順天堂大学医学部附属静岡病院 新生児センター）
- (6) 出生前 LPS 羊水腔内投与がラットの腎の発育発達に及ぼす影響に関する検討
高橋 秀弘（東京都立小児総合医療センター 新生児科）
- (7) 胎児期ヒ素曝露による C3H マウス雄肝臓での脂質代謝変化と Ha-ras 変異をもった腫瘍の増加
野原 恵子（国立環境研究所）
- (8) 授乳期の高アルギニン摂取による内臓脂肪蓄積誘導に関する報告
小山 彩香（東京大学 総括プロジェクト機構「食と生命」）
- 座長 宇田川 潤（滋賀医科大学）
- (9) 胎児期タンパク質制限が血圧調節関連遺伝子の制御に及ぼす影響
佐藤 正幸（東京大学 総括プロジェクト機構「食と生命」）
- (10) 胎生初期の低栄養状態による脳発達への影響
金子 隼也（滋賀医科大学 解剖学講座 生体機能形態学部門）
- (11) ダイオキシン曝露による成熟後のマウス高次脳機能異常
掛山 正心（東京大学大学院医学系研究科 疾患生命工学センター健康環境医工学部門）

17:52～17:57 閉会の辞

18:10～18:15 集合写真撮影（本館 1 階ロビー）

19:15～21:15 懇親会 ホテルカデンツァ光が丘 レストラン「ルミエール」